

# 平成25年度 事業報告書

学校法人 夙川学院

# I. 事業の概要

## 1. 学校法人夙川学院建学の精神

夙川学院は、明治13年(西暦1880年)、御影弓場の地に故 増谷かめによって創設された裁縫塾を母体としています。

当時は女子の教育についての関心が低かったのですが、かめは、女子教育の必要性を痛感し、『婦徳の高い、堅実な家庭婦人の養成』を目指し、裁縫塾を創設したのです。以後、校名は変遷しつつも確実に発展をとげてきましたが、本校教育の一大転換期となったのは、やはり終戦後、御影魚崎の地から、ここ西宮夙川の地に移転した時です。校名を増谷高等女学校から夙川学院中学・高等学校と改称し、学校教育の基礎となる教育精神をキリスト教に求め、キリスト教精神を柱として新たなスタートを切ったことです。

現在、幼稚園・中学・高校・短期大学さらには大学を併せもつ総合教育機関となりました。その間、建学の精神の主たるところである『徳のある人間を育成する』という精神は現在の組織に脈々と受継がれています。

教育の目指すところは、共通して「知」「徳」「体」すべてにバランスのとれた全人教育となります。またグローバル化した現代社会では、国際感覚を持った人間の育成ということも重要です。本学院はキリスト教精神をベースに、それぞれの組織がそれぞれの特徴を最大限生かしながら上記の目標達成に邁進しています。

### (1) 神戸夙川学院大学教育理念

#### ■基本理念

平成19年(2007年)に開学した神戸夙川学院大学観光文化学部観光文化学科も、ホスピタリティやケアの精神に通じるその理念を踏襲し、「幅広い教養に裏打ちされた豊かな人間性」と「社会的な実践力」を兼ね備えた「21世紀の観光産業を担うリーダー」の育成を使命・目的とし、教育を続けています。

大学案内等に明示しているディプロマ、カリキュラム、アドミッションの三つポリシーもその使命・目的に沿って決めています。

観光はわが国における21世紀のリーディング産業です。本学はあくまで観光及び関連分野の人材育成にこだわりながら、将来的には西日本最大の観光を学べる大学を目指しています。

#### ■人材育成の基本指針について

中教審答申における大学の機能別分化に照らし合わせれば、本学は「幅広い職業人養成」「総合的教養教育」加えて地域貢献、産学官連携という「社会貢献機能」を重点的に担う大学を目指しています。

### (2) 夙川学院短期大学教育理念

夙川学院短期大学の建学の精神は、夙川学院の前身である増谷裁縫塾創始者の教育方針と戦後導入したキリスト教精神に基づく人格形成を反映したものであり、「愛と誠実・清新な学識」を教育理念としています。

夙川学院短期大学の教育方針は、学校法人夙川学院のキリスト教精神に基づく人格形成という建学の精神を柱として、「愛と誠実・清新な学識」の教育理念の下で、広い視野と自己表現力ならびに精神的自立につながる教育を行うというものです。具体的には、進展する国際化や情報化に対応し、幅広い知識と豊かな教養、洗練された技能、柔軟な思考力を養います。また、社会に貢献し、自己実現を図るために、個性を生かした専門的能力と表現力を身に付け、さらに、人権を尊重し、精神的に自立した女性を育成します。

なお、短期大学は、平成25年4月の神戸ポートアイランドキャンパスに移転を契機に、男性にも保育者・教育者の道を開くべく、平成25年度入学生より「男女共学化」し、それに伴い平成25年度より「教育方針」の中の「女性」という文言を「人間」に変更しています。

### (3) 夙川学院高等学校教育理念

建学の精神にも見受けられるとおり、“実学を通して道を究める”ことが本学院の創立以来変わらない教育の姿勢です。

明治初期の日本社会が近代化を目指したときには、『徳を身に付けた近代女性の育成(良妻賢母)』、戦後の民主化の時代においては、『社会の変化に適応した自立した人格の育成』とその表現方法は異なりますが、根底に流れる“『徳を身に付けた人格の育成』”という本学の建学の精神は、130年もの間変わることなく、中学・高等学校の教育方針に引き継がれています。

教育の普遍的な目的は人格の完成です。人格が完成されるためには、精神的・身体的・社会的な自立が必要となります。“徳を身に付けた人格の育成”のため、本校では次のような具体的な教育の方針を掲げています。

#### ■学力の向上と定着化

進んで学ぶ姿勢を養い、希望進路を確かなものにします。

#### ■人間性の陶冶

家族愛や師弟愛等の日本人が持つ伝統文化の良さを見直し、女性らしい優しさを身に付けるため、学校内外の様々な場所や機会を通して教育活動を行っています。戦後は、特別礼拝等を通して、キリスト教の持つ博愛の精神を学び、愛と規律と責任を教えています。

#### ■健全な心身の育成

“健全なる精神は健全なる身体に宿る”スポーツをはじめとする集団活動を通じて体力を増進し、協調と連帯の精神を養います。集団活動で得た、規律尊重の精神と礼儀正しさを日常生活にも生かせる折り目正しい人格と、いかなる境遇にも屈しない不撓不屈の心身を育成します。

#### ■個性の伸張

普遍的な価値観のひとつである“個人の尊厳”を具現するため、それぞれの個性と適性を尊重し、一人一人の自己実現に向けて指導します。“共存”のできない社会生活はありえない、自己実現の達成に

より、内外の多様な人々との“共存”が可能になり、ひいては自他を尊重できる人格になります。

#### ■国際感覚の育成

世界の人達と共存できる国際感覚豊かな人材を育成します。

### (4) 夙川学院中学校教育理念

中・高・短大・大学の一貫教育の3年間の重責を担い、宗教的情操と個人を尊重する心を涵養し、相互信頼のきずなを深めます。

充実した教育施設と小規模校の特徴を生かして、個々の可能性を伸ばし、あらゆる機会を通じて基礎学力の向上に努めます。

### (5) 夙川学院短期大学

#### 付属幼稚園教育理念

明るい子ども、健やかな子ども、美しい心の子どもに育てます。

## 2. 教育力向上及び研究に係る事業

### (1) 教育内容及びカリキュラムの内容

#### ■大学

既設の観光文化学科に加え、観光マネジメント学科を新設いたしました。観光マネジメント学科では、「マネジメント的な思考と実践力を兼ね備えた観光文化事業およびその関連領域のリーダーとなる人材の養成」を教育目標に、観光事業の課題である事業再生や地域社会の再生に取り組める科目を特色としてカリキュラムを構成しています。

観光文化学科については、コース再編を含むカリキュラム改革の議論を開始いたしました。次年度も議論を継続し、平成27年度に結実させる予定です。

また、平成24年度に引き続き、退学者防止を教職員の共通テーマとし、調査研究基礎科目を主体としたクラス担任制を通して学生の授業出席状況の把握とそのケアを行いました。また、夙川学院短期大学の本学キャンパスへの移転に際し、短期大学のアメニティ設備も移設し、学内環境を大幅に向上させる

ことができました。その結果、退学率(年度末時点)は前年度 4.3%と比べて今年度は 2.3%にまで低下いたしました。

## ■短期大学

児童教育学科では、平成 23 年度入学生より、3 年制であった保育士養成課程を 2 年制に変更しました。それにより、短大の 2 年間で小学校教諭免許、幼稚園教諭免許、保育士資格の 3 つの免許・資格が取得できるのは、兵庫県では本学のみとなりました。そのためか、平成 23 年度入学者数は、入学定員 100 名を上回る 112 名となりました。平成 24 年度入学生は、学院を取り巻く諸般の事情もあり、60 名にとどまりましたが、平成 25 年度入学予定者数は、110 名(内男子 6 名)、平成 26 年度は 129 名(内男子 4 名)と大幅に増加しています(平成 26 年 3 月 31 日現在)。

3 つの免許・資格取得のためもあり、平成 23 年度はカリキュラムの大幅な改革を行い、法令で定められている科目のみではなく、本学独自科目として「子ども学ゼミ」を開講し、在学生・受験生からも好評を得ています。これは、多彩な分野のユニットから自分の興味・関心のある分野を選び、さらにその技術を身につけることにより、自分の得意分野を生かすことのできる付加価値を有した教育者・保育者を育成することを目指したものです。他学にはない、1・2 回生の合同ゼミ形式となっており、コミュニケーション力を含めて授業内容の充実、発展性を図り、赤ちゃんの心理をより深く学んだ保育者、児童英語を担当できる幼稚園や幼児教室の先生、スポーツジムの幼児向けインストラクター、自作の絵本を読み聞かせできる保育者など、就職の幅を広げることも期待しています。

免許取得に不可欠である「教育実習」は、事前事後指導を 1 回生から 2 年間開講し、1 回生の観察・参加実習と 2 回生の本実習のための指導をきめ細かく行っています。教育実習は付属幼稚園や協力園との連携を図り実施し、実習後の事後指導では、実習園からの評価表を基に、教職への意識の向上を促すよう指導しています。

教養教育科目のスリム化を行い、児童教育学科に

的を絞り科目数をかなり削減しました。しかし、大学コンソーシアムひょうご神戸の「単位互換制度」や神戸ポートアイランド 4 大学連携単位互換制度、放送大学など、大学間交流には教員・学生ともに積極的に参加しているため、単位互換科目としての教養教育科目は維持しています。

### <高大連携講座>

高大連携として、夙川学院高等学校普通科児童教育進学コースの本学への進学が決定した生徒を対象に、短大の先取り授業として、後期に教養教育科目 1 科目、専門教育科目 1 科目を本学教員が高校に出向いて授業を行い、入学後に単位が認定されるシステムがあります。平成 25 年度には 24 名の生徒が受講しました。

また、兵庫県立西宮甲山高等学校とも高大連携講座の提携をしており、平成 25 年度は、9 月 26 日～11 月 21 日までの毎週木曜日に同高等学校に教員が出向き、教育総合類型 2 年生を対象に教育に対する理解を深める講座を開きました。

## (2)FD(教育内容・資質向上)の取組

### ■大学

担任制度と連携している調査研究基礎科目を軸としての初年次教育の在り方などカリキュラム、使用教材などの検討、情報交換会などを定期的に開催しました。また、FD の先進事例について、外部からの講師を招聘した勉強会も実施しました。

### ■短期大学

授業評価アンケートを年 2 回実施しており、アンケート結果ならびに授業担当者のコメントを学内で公表しました。

また、研究紀要とは別に、FD 委員会で年 1 回、教育に関する実践を掲載した「教育実践研究紀要」を発行し、平成 25 年度においては、授業研究実践の成果を活発に公表する場となりました。

## (3)キャリア教育・支援の推進

### ■大学

学生の就業力支援として初年次からキャリア教育科目を設け、1年次キャリアガイダンス、2年次キャリアデザイン、3年次キャリア演習と学年進行に合わせて体系化するとともに、インターンシップ、コープ4(中期インターンシップ)、コープ16(長期インターンシップ)科目を配し、学生が実社会で実践教育を体験できる機会を広げ、就活に向けてのキャリア教育の充実を図りました。

キャリアセンターでは3、4年生の就職支援として「面接対策」「エントリーシートの作成」「履歴書の書き方」など講習を実施するとともにゼミ教員とキャリアセンター職員の定期的な学生の就活状況の情報交換会を通して、個々の学生情報を一元化し、指導に役立てることで就職実績の向上に努めました。

その結果、観光業界をはじめとする幅広い業界への就職を実現しました。平成25年度就職希望者就職率は90%。(平成26月5日現在)

## ■短期大学

キャリア教育の重要性を鑑み、平成22年度入学生よりキャリア教育科目をカリキュラムの中に取り入れ、その内1科目を卒業必修科目に位置付けています。1回生の前期に「キャリアプランニングの基礎」で、自分らしく生きることや社会で働く意味を考え、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の職業について概観すると同時に基礎学力の強化対策も行いました。また、後期には「キャリアスタディA」を開講し、キャリア教育に精通した外部講師および児童教育学科教員や学生支援担当者が、「自己分析」「履歴書の書き方」さらに保育園、幼稚園就職をめざした学生の採用試験を想定した実践的な授業を行いました。

また、キャリア教育科目と同時に学生支援課によるガイダンス等を実施することで、各学生たちの希望に副った進路支援を行いました。

### <園OG講演会>

幼稚園や保育園で働く本学を卒業した先輩に講演をしてもらうOG講演会は、平成25年度には3回実施しました。それぞれ対象学生や講演のテーマは違うものの、常に子どもと係る仕事の素晴らしさを伝える

機会となり、学生達にとって現場で働く先輩達の声を素直に聞くことにより、自分達の行動や授業への取組方を改めるきっかけになりました。特に園内定者対象OG講演会は、採用園での研修や1年目の心構え、今準備しておくこと等を講演してもらい、現場に出るにあたり大変有意義なものとなりました。



### <保育園合同説明会>

平成25年度より近隣の保育園6法人13園より学内で合同説明会を行わせて欲しいという申し出があり、夏休み直前の一日を利用して実施しました。2年生中心に多くの学生が参加し、就職を視野に入れた相談や園側の説明に熱心に耳を傾ける姿が見られました。



### <清掃研修>

平成23年度初めて児童教育学科1回生を対象として教育実習前の学生に実施した清掃研修を、平成25年度も実施しました。

幼稚園や保育園では、子どもと接することだけが仕事ではなく、園内掃除をすることも大きな仕事です。近年園訪問をすると雑巾を絞れない、ほうきを

使うことが出来ない保育者が多いと聞きます。そのため、清掃業者に依頼し指導してもらいました。この研修により、教育実習先の園からはとても丁寧に掃除ができたと評価を得ることが出来ました。

#### ＜企業就職者への対応＞

企業就職希望者に関しては、カリキュラム外で年間を通して学生支援担当者による複数の就職ガイダンスを開催し、学生の就職支援を行いました。

近年では、就職活動もパソコンやモバイル端末を使ったインターネットによる就職サイトからエントリーすることが主流となり、就職サイトの登録や活用方法など現在の就職に必要な情報を提供しました。そして、企業就職内定者との座談会を開催し、直接先輩の就職活動方法を伝えることで、学生の就職意欲向上を図りました。その他、毎年、各企業を受験した学生から受験結果報告書を提出してもらい、試験の出題傾向や面接のパターンなど、就職支援に役立てています。また、古くから厚意にいただいている企業からの求人、常に企業就職希望者への案内を徹底し、就職率の向上に取り組みました。

## (4) 付属施設の事業

### ■ 大学

#### ◆ 図書館

夙川学院短期大学の移転に伴い、大学と短大で図書館機能が一体化されました。設備・蔵書も充実し、よりよい図書館環境を整備することができました。また、例年実施をしている学生選書ツアーにおいては、短期大学の学生も参加し、大変好評を博しました。

#### ◆ 一般社団法人英語教育研究所

英語教育・国際理解プログラムの開発および実施をしました。

- ・大学における英語講座および米国留学プログラムの実施
- ・未就学児・小学生用の早期イマージョンプログラムの開発
- ・夙川学院短期大学の英語講座の開講
- ・夙川学院短期大学付帯事業における特別講座

### 開催

- ・夙川学院短期大学付属幼稚園における英語活動
- ・夙川学院中高等学校の英語指導補佐
- ・中高生を対象とした6ヵ年国際教育プログラム（東京）

### ◆ 地域研究所

平成 25 年度実施の産官学連携事業

文科省委嘱事業「中核人材育成事業(成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業<観光分野>)」にて、着地型観光(インバウンド観光)人材育成のための教材開発、人材特性調査、インバウンド観光取扱説明書の発行を行い、学内にて「インバウンド観光シンポジウム」を実施、成果発表を行うとともに一般社団法人日本インバウンド教育協会を設立しました。この事業は、本年度長崎国際大学、横浜商科大学そして本学で締結されたみなとまち三大学の連携が主体となり実施されました。

本学観光文化学部学部長が代表を務める「神戸・ニューツーリズム事業実行委員会」が神戸市の委嘱事業としてインバウンド観光モニターツアーを実施した。

神戸市交通局より受託研究「こうべ市バス旅」を実施、学生の新しい市バスを利用した旅の提案を行った。

その他、六甲山ミーツアート、神戸ルミナリエ等でのボランティア活動、観光振興の支援を実施した。

### ■ 短期大学

#### ◆ しゅくたん広場

西宮市からの委託事業として学内に「しゅくたん広場」を開設し、主に0歳～3歳までの乳幼児の子育て支援を行っていましたが、平成 25 年度は短大の移転に伴い、場所を中高敷地内に移しての開設となりました。そのため附属幼稚園や夙川学院高校生との交流も今まで以上に密になりました。

平成 25 年度は開設日数 224 日、総利用者数 5,620 名、平成 21 年 10 月～平成 25 年度までの累計利用者数は 23,400 名となりました。平成 25 年度の内訳は

利用児童数 0 歳児 705 名、1 歳児 1,638 名、2 歳児 473 名、3 歳児 64 名、4 歳児 2 名ののべ 2,882 名、保護者 父親 26 名、母親 2,666 名、その他 46 名ののべ 2,738 名が利用、利用回数は新規 245 件、2 回目以降の利用が 2,377 件、高校生や社会人等の一般ボランティア 89 名の参加がありました。また、しゅくたんひろば講座として学内外の講師を招き講座「親子で簡単リミック」、「親子でヨガ」「手作り指絵の具であそぼう」「モンテッソーリの子どもの見方を学ぶ」などを毎月定期的に開催しています。

地域の子育て支援の場として、貴重な存在となっています。



## (5) 研究活動支援

### ■大学

#### ◆文部科学省の競争的資金(科学研究費補助金・GP)への応募・獲得

本学の教育改革に対する「優れた取組」いわゆる GP と本学教員による科学研究費取得への応募については本年度も積極的に推進してきました。

科学研究費については、4 件が採択されました。他大学との分担としては、継続 3 件、新規 1 件が採択されました。

文科省委嘱事業として「中核人材育成事業(成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業<観光分野>)」、受託研究として神戸市交通局、補助金事業はインバウンド観光モニターツアー(神戸市)を受託しました。

#### ◆学内の研究及び成果に対する支援

本学専任教員(小槻 文洋、原 一樹、伊多波 宗周、高根沢 均、田中 祥司、澤山 明宏、戴 智軻、河本 大地)の共訳による『観光研究のキーコンセプト』(現代図書)の出版に際し、助成を行いました。

また、神戸夙川学院大学研究紀要第 5 号は平成 26 年 6 月発刊予定です。

### ■短期大学

#### ◆文部科学省の競争的資金(科学研究費補助金)への応募・獲得

平成 25 年度では、科研費の応募はありませんでした。

## (6) 国際交流事業

### ■大学

#### ◆海外留学プログラム

平成 25 年度海外派遣留学・交換留学に本学より 39 名の学生が参加しました。

<派遣留学>(約 4 ヶ月~7 ヶ月間)

・University of Oregon	5 名
・Oregon State University	3 名
・Portland State University	7 名
・Felician College	5 名
・New Mexico State University	2 名
・California State University	3 名
・Finlandia University	2 名
・Marylhurst University	1 名
・上海外国語大学	3 名
・北京師範大学	1 名
・地球一周国際教育プログラム	2 名

<交換留学>(約 1 ヶ月間)

・Pitzer college(派遣)	5 名
・Pitzer college(受け入れ)	4 名

### ■高校・中学校・幼稚園

#### (1) 教育課程の充実

### ■高校

#### ◆普通科 II 類・特別進学コース

#### (文系(特進)/看護(特進))

選択科目を増やした 6 時間授業で余裕のある教育

課程を実施し、補習や特別授業を実施しました。

#### ◆文系(特進)

弱点の補強や長期休暇中の特別授業を実施し学力の定着及び応用力を身につけさせました。

また、定期的に全国模試を受験させ早い段階からの大学入試対策を行いました。



#### ◆看護(特進)

看護系学校進学のための主要 4 教科に重点を置き長期休暇中の特別授業、小論文指導を実施いたしました。また看護や医療技術の体験、看護セミナーを通じ、看護のこころがまえや人命の尊厳を学習いたしました。看護医療全国模試の受験等学力に応じたきめ細かな進路指導を実施いたしました。



#### ◆スポーツ特進

専攻する競技の技術レベルを高め、部活動と学業の「文武両道」が実践できる環境です。



#### ◆普通科 児童教育進学コース

教育課程に保育技術Ⅰ(ピアノ)、保育技術Ⅱ(造形)、保育技術Ⅲ(リズム、体操)、発達と保育、保育自習を実施し、保育に関する知識並びに興味関心を高め、保育関連の進学実績を残しました。





#### ◆普通科 福祉コース

教育課程に社会福祉基礎、介護福祉基礎、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護家庭、介護実習、こころとからだの理解等の専門教科を実施し、介護福祉士国家試験合格率 73% (全国平均 48%) を達成いたしました。



#### ◆普通科 I類・総合コース

標準的な教育課程を実施し、大学・短大・専門学校・就職などの進路選択にきめ細かく対応いたしました。



(修学旅行 北海道)

#### ◆美術科

1年次では素描I、造形基礎、デザイン基礎、西洋美術史等関連基礎科目を修得し、2年次で絵画立体コース及びデザインコースに分かれより専門的教科を実習し、3年次ではさらに、絵画、立体造形、グラフィックデザイン、プロダクトデザインといった高度な学習プログラムを実施いたしました。



## ◆体育科

教育課程に体育理論、保健、スポーツⅠ(体操・陸上・水泳)、スポーツⅡ(球技)、スポーツⅢ(武道)、ダンス(基本から創作まで)、体づくり運動(専攻体育種目の基本的技術の修得)、野外活動(スキー実習)、専攻体育(3年間を通して週4時間)を実施し国際的に活躍できるアスリートの育成を目指しました。



特に英語、国語、数学におきましては習熟度授業を実施し2クラスをさらに3クラスに分けて指導を行いました。

## ■中学・高等学校

体育祭は、平成24年度から神戸総合運動公園内にあるグリーンアリーナ神戸で行なっています。校庭での開放感はありませんがエアコンの利き、演技や競技は、快適に行なえました。また、観覧席が階段状となっているので、演技や競技がたいへん見やすく、保護者にも満足いただけたようです



今年の芸術鑑賞会は校内の記念館で行いました。落語家や曲芸人の方に来ていただき、「日本の笑い～寄席演芸の世界～」を鑑賞しました。日本の落語を世界へ広げる活動をされている落語家やイギリス人なのに大阪弁で話す落語家などに落語を聞かせき、また、曲芸や「寄席入門」ということで、落語の基

本である一人で何役にも演じるやり方や、小道具の説明、落語の舞台裏になるお囃子(おはやし)について実演説明なども行なっていただきました。



## ■幼稚園

### ◆各学年の目標

教育目標が幼稚園修了の間に達成できるように年齢による指導に重点をおいて各保育年別の目標をもって実践いたしました。様々な行事においては、当日の結果にとらわれるのではなく、過程を大切に保育することを心がけています。

#### 満三歳児組

園生活を楽しみながら感情の安定を図り、身の自立を促しました。

#### 年少組

遊びを通して基本的な生活習慣を身につけ、協力してみんなと遊べるようにしました。

#### 年中組

集団生活の楽しさを体験する中で、きまりを守ろうとする態度や豊かな情操を育みました。

#### 年長組

創造性を豊かにし自主的、協力的に活動すると共

に、体育力の増進を図り何事にも意欲的に取り組む姿勢を育みました。

#### ◆園外保育

子どもの主体性を促す遊びと多様な発達に合わせた援助の充実を図り、平成 25 年度はイベントホールも完成し、活動の場は広がりました。園外保育も例年通り行いましたが、短期大学の移転に伴い年少組の園外保育を飯岩神社に移しました。

年少組 飯岩神社(徒歩)

年中組 北山植物園(徒歩)

年長組 伊丹昆虫館、大阪キッズプラザ

(公共交通機関利用)

いちご狩り、六甲山人工スキー場そり遊び

(観光バス利用)

#### ◆運動会

各学年に合ったプログラムで楽しく取り組むことができました。年長組による鼓隊パレードは、他学年の憧れでもあり、保護者からも「感動した」との声をいただきました。

#### ◆宗教教育

週 1 回の礼拝を受けることで、“聞く力”を養うことができました。

感謝の気持ちを育て、“ありがとう”が言える子どもになりました。

クリスマス礼拝では、年長組は生誕劇でクリスマスの日の出来事を伝える役割を果たすことができました。

#### ◆「英語遊び」の導入

年中・年長組では、英語教育研究所との連携により、週に一度「英語遊び」を導入しました。早くから英語に慣れることができ、遊びながら学ぶことで、自然と英語を身につけていくことを目指しています。平成 24 年度は、講師の都合や園行事等の関係で必ずしも継続的な「英語遊び」が実施できなかったため、次年度に向けて英語教育研究所と連携体制について調整をしていくことにしています。

#### ◆「預かり保育(にこちゃんルーム)」の実施

保護者のニーズに対応し、平成 24 年度より行っ

ている預かり保育を 25 年度も、保育終了後から午後 6 時まで実施しました。学年の枠を超え、園庭遊びを中心に楽しく過ごすことをねらいとしています。平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月まで年間を通じて 159 日間実施し、延べ利用者数 3,434 名、1 日あたり 21.5 名でした。

子どもたちが園生活に慣れた頃から利用者が増え、保護者からも「安心して預けられる」と言っただき、子どもたちからも「楽しかった、もっと遊びたい」と言ってもらえました。

#### ◆付帯事業の実施

保護者・子どものニーズに応えると共に、付属幼稚園の特色をアピールするため、平成 24 年度より実施し、25 年度も継続しました。毎月開催の一般講座として 9 講座、夏休み講座として 3 講座を開講し、延べ受講人数は 2,703 名となりました。「こどもアトリエ」「楽しいバレエ」などバラエティに富んだ内容で、それぞれ参加した保護者・子どもたちは、大変楽しんで活動することができました。

### (2) 国際交流事業

#### ■ 中学高校

#### ◆ 海外姉妹校

タウポ・インターメディアイト・スクール(ニュージーランド)での 2 週間のホームステイを実施いたしました。

### 3. 学生・生徒等の支援に係る事業

#### ■ 大学・短期大学・高校・中学校・幼稚園

#### (1) 課外活動支援の推進

#### ■ 大学

#### ◆ 学生プロジェクト

学生プロジェクトは、学生が主体となって自由な発想で企画・実行し、地域社会または大学への貢献を目的とした学生の取り組みを大学が支援する制度です。

<団体名・活動内容>

・Memorial Photo

結婚記念写真のないご夫婦、真珠婚・金婚式を迎えるご夫婦の記念写真撮影を行う。

•Persona

Facebook 等を活用し、神戸夙川学院大学の情報を学内外に発信する。

•RE: Kobe

学生視点による新たな神戸ブランド創出を通し地域へ貢献する企画を行う。

### ◆学生の活動

11月に大阪で開催されたNICE(日本国際ワークキャンプセンター)の「国際ボランティア大賞」西日本予選において、本学3年の河本ゼミ生(環境グリーンツーリズム)がプロジェクト部門第2位を受賞しました。兵庫県香美町小代区での国際ワークキャンプのリーダーとしての経験の発表が高く評価されました。

1月17日に神戸(人と防災未来センター)で開催された阪神淡路大震災のメモリアルイベントの第2部「詩の朗読」において、本学2年生(イベントプロデューサー論受講生)が若者の代表として「心の花」鼓動を朗読しました。

### ■短期大学

2年間という限られた修業年限の中で免許取得をするには授業が過密にならざるをえないため、課外活動を自主的に行なうことは難しいので、授業等で身につけた技術を広く社会に役立つことを目的とした課外活動奨学金制度を設けています。

また、学生が参加しやすいように学生部主催でスポーツ的なイベントを設けました。七夕飾りやクリスマスイベントなどを開催し、多数の学生が参加しました。

## (2)進路指導(進学支援)の強化

### ■高校

#### ◆平成25年度進学実績

【大学】合格者数

園田学園女子(11)、神戸親和女子(7)、甲南女子(7)、武庫川女子(7)、京都精華(5)、京都造形芸術(5)、兵庫(4)、神戸夙川学院(4)

大阪芸術(3)、神戸学院(3)、神戸芸術工科(3)、天理(3)、大阪学院(2)、大阪樟蔭女子(2)、大阪体育(2)、大阪成蹊(2)、大手前(2)、関西外国語(2)、京都嵯峨芸術(2)、神戸松蔭女子学院(2)、甲南(2)、中京(2)、同志社女子(2)、梅花女子(2)、立命館(2)、愛知学泉(1)、芦屋(1)、大阪経済(1)、大阪国際(1)、大阪人間科学(1)、追手門学院(1)、金沢学院(1)、関西(1)、関西看護医療(1)、環太平洋(1)、京都学園(1)、京都光華女子(1)、京都産業(1)、京都ノートルダム女子(1)、近畿(1)、神戸海星女子(1)、神戸女学院(1)、神戸女子(1)、駒澤(1)、女子美術(1)、太成学院(1)、宝塚医療(1)、東海(1)、東京女子体育(1)、日本体育(1)、法政(1)、宮崎産業経営(1)、龍谷(1)、

【短期大学】合格者数

夙川学院(18)、大阪成蹊(3)、大手前(3)、武庫川女子(3)、園田学園女子(2)、藍野(1)、大阪城南女子(1)、大阪女学院(1)、大阪女子(1)、関西外国語(1)、頌栄(1)、聖和(1)、北翔(1)、龍谷(1)、

【専門学校】

大阪デザイナー(3)、ECCアーティスト(2)、大阪ダンス&アクターズ(2)、大阪ビューティアート(2)、大阪バルエール美容(2)、大原簿記(2)、神戸バルエール美容(2)、ビジュアルアーツ(2)、兵庫栄養調理製菓(2)、履正社医療スポーツ(2)、ECCエンタテインメント(1)、ECC国際外語専門(1)、大阪工業技術専門(1)、大阪コミュニケーションアート専門(1)、大阪済生会中津看護専門(1)、大阪社会体育(1)、大阪動植物海洋(1)、大阪モード学園(1)、関西看護(1)、関西美容(1)、関西保育福祉(1)、甲賀健康医療(1)、神戸スポーツアートCocoro(1)、神戸製菓(1)、神戸動植物環境(1)、四国医療(1)、西神看護(1)、東京ビューティアート(1)、東洋医療(1)、

なにわ歯科衛生(1)、姫路歯科衛生(1)、  
平成リハビリテーション(1)、ミス・パリエステティック(1)、  
洛和会京都厚生学校(1)、

#### 【就職】内定者数

##### <公務員>

大阪府警(1)、兵庫県警(1)、刑務官(1)、  
自衛官候補生(1)、

##### <企業>

アシックス販売(1)、稲坂油圧機器(1)、  
佐川急便東日本支社(1)、シックス(1)、タムラ(1)、  
東海旅客鉄道(1)、トキワ(1)、にしけい(1)、  
読売ゴルフ(1)、楽喰う(1)、

##### <医療法人>

甲風会有馬温泉病院

##### <社会福祉法人>

円勝会ドリーム甲子園(1)、  
甲山福祉センター(1)、

### (3)多様な学生のニーズへの対応

#### ■大学

平成25年度入学生175名のうち22名のアジアからの留学生を迎え、大学全体で64名の留学生が学んでいます。中国を主に、韓国、台湾、タイ、ベトナム、ネパールからの留学生で、「日本語教育」講座で日本語の習得に励みながら、専門科目、教養科目、ゼミで観光について日本人学生とともに学んでいます。

#### ■短期大学

##### ・留学生入学について

平成13年度入学試験から「外国人留学生特別入試」を導入し、留学生の受け入れを行っています。留学生の経済的負担を軽くし、勉学に専念できるよう「学生納付金の減免制度」並びに「外国人留学生特別奨学金制度」を設けています。

##### ・社会人入学生について

平成11年度入学試験から「社会人特別入学試験」を導入し、毎年、社会人の受け入れを行っています。入学後の支援として「社会人特別奨学金制度(支給

額30万円)」を設けています。平成25年度は1名に支給しました。

##### ・支給奨学金制度について

本学支給奨学金(経済支援、成績優秀者)、後援会支給奨学金を設けています。年々、困窮度の高い学生が増え続け、それに反映された形で応募者も増え続けています。平成25年度は、本学支給奨学金により、年度末に授業料が払えないことで退学となりかけた学生を無事進級させることができました。平成25年度は成績優秀者2名(各10万円)、経済支援4名(～25万円)、後援会3名(各20万円)を支給しました。

### (4)クラブ活動の記録

#### ■大学

##### ◆吹奏楽部

神戸夙川学院大学では観光文化において音楽が重要なコンテンツと位置づけ、課外活動団体の中でも吹奏楽部を重点支援団体としています。平成25年度は8月に開催された第60回兵庫県吹奏楽コンクール大学部門で金賞を受賞しました。3月には夙川学院中学高等学校の吹奏楽部と合同で初の演奏会を開催しました。

##### ■短期大学

短大におけるクラブ活動は、2年間という短期間であり、また、実習や授業の過密さから継続的に行うことも難しかったのですが、移転後は四大の学友会とともに課外活動の運営を行い、四大の持つすべての課外活動に同等の資格で入部できるようになっています。

#### ■高校

##### ◆兵庫県高等学校総合体育大会

学校対抗総合得点順位において、  
46年連続47回目の総合優勝を成し遂げました。

##### ◆バレーボール部

近畿高等学校男女優勝大会	ベスト16
兵庫県高等学校総合体育大会	第8位
兵庫県高等学校新人大会	第8位



個人組手 第3位・個人形 優勝・第2位  
兵庫県高等学校総合体育大会

団体組手・形 優勝

個人組手 準優勝・個人形 優勝・準優勝  
兵庫県高等学校新人大会 団体組手・形 優勝

個人組手・形 優勝・第3位

#### ◆剣道部

兵庫県高等学校総合体育大会 個人 出場

#### ◆アーチェリー部

兵庫県民体育大会 個人 優勝・第2位

#### ◆柔道部

全国高等学校総合体育大会 団体 出場

個人 78kg 第5位

48kg・52kg・57kg・63kg・70kg 出場

全国高等学校選手権大会 団体 第9位

個人 52kg 第5位

57kg・63kg・無差別 出場

皇后杯全日本女子柔道選手権大会 出場

全日本カデ柔道体重別選手権大会 44kg 第3位

57kg 第3位

ドイツカデ柔道選手権大会 57kg 出場

世界カデ柔道選手権大会 57kg 第2位

東京国体 出場

近畿高等学校新人大会 団体 第5位

個人 48kg 優勝・78kg 第2位・63kg 第3位

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

57kg・78kg 出場

兵庫県高等学校総合体育大会 団体 優勝

個人全階級 優勝

兵庫県高等学校新人大会 団体 優勝

個人 48kg・52kg・63kg・78kg 優勝

#### ◆茶道部

文化祭にてお茶席を設け、お点前を披露。

毎週水曜日お点前のお稽古。

#### ◆クッキング部

文化祭参加(ケーキ・クッキー・飲み物)

手芸・お菓子作り・料理・ペーパークラフトなど。

#### ◆書道部

毎週月曜日お稽古。臨書から創作までの作品活動。

昇段を目指し毎月競書提出。

#### ◆美術部

美大受験対策。

鉛筆デッサン・色彩構成などの課題。

#### ◆演劇部

週3回練習。創作脚本作成。文化祭にて上演。

阪神支部大会・春期発表会・夏期講習会参加。

平成25年度阪神支部大会 優良賞受賞。

#### ◆ESS部

外国人講師による英会話、英検等の指導。

阪神 ESS ユニオン主催シナリオオーディング

コンテスト、スピーチコンテスト出場。

#### ◆生物部

生物の飼育/校内の生物の観察・採集。

#### ◆吹奏楽部

学校行事にて演奏。

西宮市吹奏楽連盟定期演奏会・西阪神吹奏楽コンクール

西宮市高等学校吹奏楽連盟定期演奏会出場。

#### ◆ダンス部

文化祭にてステージ発表。

#### ◆フォークソング部

同窓会ホームカミングデーにてライブ

文化祭の記念館ステージ出演

文化祭のチャペルでのライブ出演

クリスマス礼拝の際に、スペシャルステージ出演

大阪府警察主催 NESSO "WITH"コンサート出演

#### ◆軽音楽部

新入生歓迎ライブ・文化祭にてステージ発表。

ソニックハイスクールライブ出演。

神戸夙川学院大学大学祭出演。

#### ◆ボランティア活動部

福祉施設・老人ホーム関係ボランティア(特別養護老人ホームなど)

学校でのボランティア活動(礼拝・エコキャップ運動など)

募金活動ボランティア(あしなが学生基金・24 時間TV など)

地域、敬老会でのボランティア(西宮まつり, 夏祭りなど)

#### ◆漫研部(普通科)

文化祭にて作品発表・展示。部誌・作品集発行(不定期)。

絵画展鑑賞(校外活動)。

#### ◆漫研部(美術科)

文化祭にて作品発表。部誌の発行。

#### ◆舞台照明研究部

学校行事・文化祭等にて照明活動全般。

#### ■中学

#### ◆バスケットボール部

兵庫県中学校新人大会 ベスト 8

西宮市中学校総合体育大会 第3位

阪神中学校総合体育大会 出場

#### ◆柔道部

全国中学校総合体育大会

個人 52kg・63kg 出場

近畿中学校総合体育大会 団体 出場

個人 52kg・63kg 出場

兵庫県中学校総合体育大会 団体 第2位

個人 52kg・63kg 優勝

40kg・44kg・57kg 第3位

兵庫県中学校新人大会 団体 優勝

個人 52kg・63kg 優勝 44kg 第3位

#### ◆空手道部

全国中学生空手道選手権大会 団体形 出場

団体組手 優勝

全国中学生空手道選手権県予選

団体形 優勝・個人組手 優勝

近畿中学校空手道選抜大会

団体形 準優勝・団体組手 優勝

全国中学生空手道選抜大会 個人形 第3位

#### ◆体操競技部

近畿中学校体操競技選手権大会 団体 入賞

兵庫県中学校総合体育大会

団体 優勝・個人総合 優勝

#### ◆テニス部

兵庫県ウインタージュニア 16 才以下 ベスト 16

兵庫県春季ジュニア 16 才以下 ベスト 4

#### ◆バレーボール部

近畿中学校選抜優勝大会 ベスト 16

兵庫県中学校総合体育大会 第8位

兵庫県中学校選抜優勝大会 第3位

兵庫県中学校新人大会 第8位

#### ◆ハンドボール部

高校生と一緒に活動

#### ◆水泳部

阪神中学校総合体育大会 個人 出場

#### ◆アーチェリー部

高校生と一緒に活動

#### ◆ソフトボール部

西宮市民体育大会

武庫女・浜甲子園と3校合同で出場

近畿私立中学校選手権大会

神戸山手と合同で出場

#### ◆バドミントン部

近畿中学校総合体育大会 シングルス 出場

兵庫県中学校総合体育大会 シングルス 第3位

## 4. その他の主要事業

### (1) 地域との共生

#### ■大学

#### ◆観光甲子園

全国の高校生を対象に、第5回全国高校生観光プランコンテスト「観光甲子園」の本選が8月25日に神戸夙川学院大学アリーナで実施されました。全国の高等学校 75 校から寄せられた 136 プランの中から本選に出場した 10 校が、斬新な視点で独創性溢れる観光プランを発表しました。厳正なる審査の結果、島根県立智頭農林高等学校と愛知県立愛知商業高等学校がグランプリに輝きました。

#### ◆COMIN'KOBE 13 の開催

阪神大震災を風化させないをテーマに生まれた

チャリティロックフェス「COMIN\*KOBE」。

4月29日にCOMIN\*KOBE13として、ワールド記念ホール、本学を会場に開催されました。

観客動員は31,200人(のべ12万人)と過去最高の動員数を記録。成功裡に終えることができました。

718名のボランティア(内本学470名)、136組のアーティスト、各専門分野のスタッフと地域住民の皆様、ご協力のもと、8,234,629円の募金を集め、無事終了する事が出来ました。募金は、東北の小学校、中学校そして音楽イベントの運営に寄附させていただきました。

## ■短期大学

短期大学の長い歴史の中で西宮とは根強い交流があり、移転後も密接に繋がっています。

地域主催のイベント、とりわけ夏の「サマーフェスティバル・イン・超木岩」には4つのクラブ・団体が参加しました。

なお、当フェスティバルのポスターのイラストを本学の学生が担当し、好評を得ました。



また、ポートアイランドに移転して初めての大学祭では、子ども向けのショーの誘致や子ども広場を設けるなどして、神戸市中央区みなとじま地区の方々にも参加いただき、盛況なイベントとなりました。今後はこのような活動を増やし、西宮と同様、地域との共生を活発にしたいと考えています。



## (2)その他

### ■短期大学

#### ◆教員免許更新講習講座開催

約13,000名の教員免許取得者を育ててきている実績もあり、教員養成機関としての社会的責任として平成21年度から教員免許更新講習を実施して来ました。

本講習は卒業生だけでなく現職教員を対象に開講し、講座内容も好評で例年定員を上回る申し込みがあり、平成25年度は7~11月まで、土日を含めて21講座開講し、のべ631名の受講者があり、受講後のアンケートでも、満足したとの声を大変多く聞くことができました。

なお、平成26年度は15講座開講する予定です(平成26年2月に文部科学省に申請し、認可済み)。

